

(短報)TAP 完成、欧州のエネルギー供給多角化に寄与

(出所 TAP プレスリリース、各種業界報道記事)

- ・ Trans Adriatic Pipeline (TAP) (年間輸送容量 10BCM) が 4 年半の建設期間を経て 10 月に完成し、11 月に商業稼働を開始したと発表。これにより、アゼルバイジャンの天然ガスをパイプラインで欧州に輸送する「南ガス回廊」が完成し、欧州のエネルギー調達ルートが増える。
- ・ TAP のガスは、ギリシア、ブルガリア、イタリアに供給される予定。今後容量を現行の 2 倍(年間 20BCM) にする計画があり、将来的にはさらに広域にガスを供給することも想定され、特にバルカン地域の脱石炭、脱ロシアガス依存に貢献する見通しだが、欧州のガス需要の動向、追加のガスソースの確保は今のところ不透明。

1. TAP 経緯

アドリア海横断パイプライン (Trans Adriatic Pipeline; TAP) コンソーシアムは 10 月 12 日、敷設工事が完了したことを発表し、その 1 か月後の 11 月 15 日、TAP が商業稼働を開始したことを発表した。

TAP はギリシア-トルコ国境で TANAP と接続し、南イタリアまで総延長 878 キロメートル、年間輸送容量 10BCM (ただし拡張計画あり)。ギリシア (550 キロメートル)、アルバニア (215 キロメートル) を通ってアドリア海を横断し (105 キロメートル)、イタリア (陸上部分 8 キロメートル) に上陸してメンドゥーニョでイタリアのガス大手 Snam の供給網に接続する。

TAP の構想は 2003 年にスイスの EGL (現在は AXPO が吸収) が最初に発表し、その後 2006 年以降に構想実現に向けた本格的なスタディが行われ、2007 年にはノルウェーの Statoil (現在の Equinor)、2010 年にドイツの E.ON Ruhrgas が参加して計画が推し進められた。カスピ海地域から欧州へガスを供給するパイプライン計画は TAP の他にも、Nabucco パイプライン計画、ITGI (Interconnector Turkey-Greek-Italy) パイプライン計画があったが、主な天然ガス供給源となるアゼルバイジャンの Shakh Deniz プロジェクトは 2013 年 6 月に、それらパイプライン計画の中で最も距離が短く経済性を重視した TAP を選択した。

同決定の後、Shakh Deniz コンソーシアムは、パイプライン計画同士の競争の過程で 2012 年に獲得した TAP 権益取得オプションを行使し、TAP と Shakh Deniz プロジェクトの参加者はほぼ同じ顔ぶれとなった。現在は、Statoil の権益売却、Snam の参入など参加者の入れ替えがあったもの

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (以下「機構」) 調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

の、Shakh Deniz のオペレーターBP、SOCAR が TAP でもそれぞれ 20%を保持している。

TAP の建設工事は 2016 年 5 月に開始。建設開始記念式典にはギリシアのチプラス首相他、EU、ジョージア、トルコ、米国等の政府高官も出席し、同プロジェクトによる新たなガス供給体制設立への期待が込められた。そして 4 年半後の 2020 年 10 月、TAP コンソーシアムはパイプライン建設工事が完了したと発表し、翌 11 月に商業稼働を開始したことを発表した。

これまでガスの輸出先がジョージアとトルコに限られていたアゼルバイジャンにとって、TAP を通じた欧州市場への供給手段を手に入れたことの意味は大きい。欧州、特に南欧バルカン地域に対するアゼルバイジャンのプレゼンス拡大に繋がる上、ACG 油田の減退が進む中で、アゼルバイジャンのガス生産の増強は同国の経済に不可欠であり、その供給ルート確保は重要な一步と言える。今後は、安定的な供給に足る天然ガスソースを維持できるかが課題として注目される。

なお、TAP はアゼルバイジャンからのガスを物理的には輸送できる状態になっているが、まだ輸送は始まっておらず、アゼルバイジャンエネルギー省によると年末までに徐々に欧州向け輸送量を増やす(ランプアップ) 予定であり、本格的な稼働は 2021 年明け以降になると見込まれる。また、輸送量の 95%は長期販売契約が結ばれており、残り 5%がスポット取引となると報じられているが、各社ごとの契約数量などは明らかにはされていない。

2. 南ガス回廊の完成

南ガス回廊(Southern Gas Corridor)は、カスピ海で生産される天然ガスを、ロシアを介さずに欧州市場に輸出するガス輸送構想である。欧州のガス調達ロシア依存の低減を念頭に計画され、EU の支援のもと関係国が実現に向け協力し推進されてきた。天然ガスの供給源は Shakh Deniz ガス田(フェーズ 2)で、輸送ルートとして 3 本の連続するパイプラインが含まれ、長さは約 3500 キロメートルに及ぶ。1 本目はサンガチャル油ガス処理ターミナルからジョージアを経由してトルコ国境に至る南コーカサスパイプライン(South Caucasus Pipeline; SCP。但し既存ラインに沿って南ガス回廊のために拡張)、2 本目は SCP からトルコ・アナトリア半島を横断しギリシア国境に至るアナトリア横断パイプライン(Trans-Anatolian Natural Gas Pipeline; TANAP)、そして 3 本目が TANAP から接続してイタリアに延びる TAP である。TAP の完成により南ガス回廊全線が完成し、アゼルバイジャンのガスのパイプラインによる欧州への直接輸送が実現する。各パイプラインの諸元は表を参照されたい。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

表：南ガス回廊を構成する3つのパイプライン

名称	SCP(SCPX;拡張分) (South Caucasus Pipeline)	TANAP (Trans-Anatolian Natural Gas Pipeline)	TAP (Trans Adriatic Pipeline)
輸送容量	年間 25BCM	年間 16BCM	年間 10BCM
総延長	692km(拡張分 489km)	1841km	878km
口径	42 インチ (拡張分 48 インチ)	56 インチ(Adrahan-Eskisehir 間 1334km) 48 インチ(Eskisehir-Edirne 間 450km、但し海底部 18km は 36 インチ)	48 インチ (アドリア海以降 36 インチ)
稼働開始	2006 年(2018 年拡張)	2018 年	2020 年
操業主体	SCP コンソーシアム	TANAP コンソーシアム	TAP コンソーシアム
参加者	BP(28.8%)、TPAO(19%)、 AzSCP(SOCAR)(10%)、 SGC Midstream(6.7%)、 PETRONAS(15.5%)、 LUKOIL(10%)、NICO (10%)	SOCAR(51%)、Botas (30%)、BP(12%)、SOCAR Turkey(7%)	BP(20%)、SOCAR(20%)、 Snam(20%)、Fluxys(19%)、 Enagás(16%)、Axp(5%)
総工費	約 50 億ドル	約 80 億ドル	50~70 億ドル

(各種情報に基づき作成)

3. TAP がもたらす欧州のガス供給への影響

前述のとおり、TAP の年間輸送容量は現状では 10BCM であり、ロシアから欧州に繋がる他のパイプラインと比較すれば決して大きいプロジェクトではない(例えば、黒海経由の Turk Stream は年間 31.5BCM、バルト海経由の Nord Stream と建設中の Nord Stream 2 はそれぞれ年間 55BCM)。欧州にとって天然ガスの新しい供給ルートが増えたという点に意味がある。

TAP の年間輸送量 10BCM のガスは、ギリシアとブルガリアに年間 1BCM ずつ、残りの年間 8BCM はイタリアに供給される予定である。Gazprom によるロシア産パイプラインガスの欧州市場第2位の需要国がイタリア(1位はドイツ)であり、そこに今後 TAP からのガスが供給されることになる。イタリアにとっては、これまでオーストリアまたはスイスから国内に入る、主にロシア産または北海産のガス、あるいは南方のアルジェリアから調達しているガスに新たにカスピ海ガスが追加され、供給源の分散と有利な契約条件(輸入価格の引き下げ)が期待される。

また、脱石炭を加速させたいギリシアにとっても、TAP のガスは石炭を代替するために新たなエ

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構(以下「機構」)調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

エネルギー供給減となる。また、ギリシア国内で TAP から分岐してブルガリアに延びる IGB (Interconnector Greece-Bulgaria)パイプラインも 2021 年の完成を目指して建設中で、ロシアガスに依存するブルガリアのガス調達先分散にも貢献することが期待されている。さらには、アルバニアからクロアチアまで延びる IAP (Ionian Adriatic Pipeline)パイプラインの建設計画もある。したがって、ロシアを介さない新しい天然ガス調達手段を創設するという南ガス回廊の本来の目的は達成されていく見通しであり、これらの国のガス調達に向けた契約の状況に注目が集まるだろう。

なお、TAP は今後輸送容量を 2 倍(年間 20BCM)にすることを検討しているが、その一方で、今後の TAP が供給するガスの量に関しては不確実な要素がある。1 つ目は、供給先の欧州における今後のガス需要であり、脱化石燃料の動きが広がる中で、TAP 拡張へのニーズがはっきりと見通せない。また 2 つ目は、主にアゼルバイジャンにおいて、追加的なガス供給源が確保できるかという点である。アゼルバイジャンには南ガス回廊のガスソースとなっている Shakh Deniz ガス田の他には、探鉱・開発が進んでいる有望なガス開発プロジェクトが今のところない。アゼルバイジャン以外では、将来的にはトルクメニスタン、イラン、または最近黒海でガス田を発見したというトルコ、さらにはロシアがガス供給源になっていく可能性も考えられるが、当面の現実的な供給源はアゼルバイジャンであり、アゼルバイジャンにおける追加のガス探鉱・開発プロジェクトの動向も注目される。

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

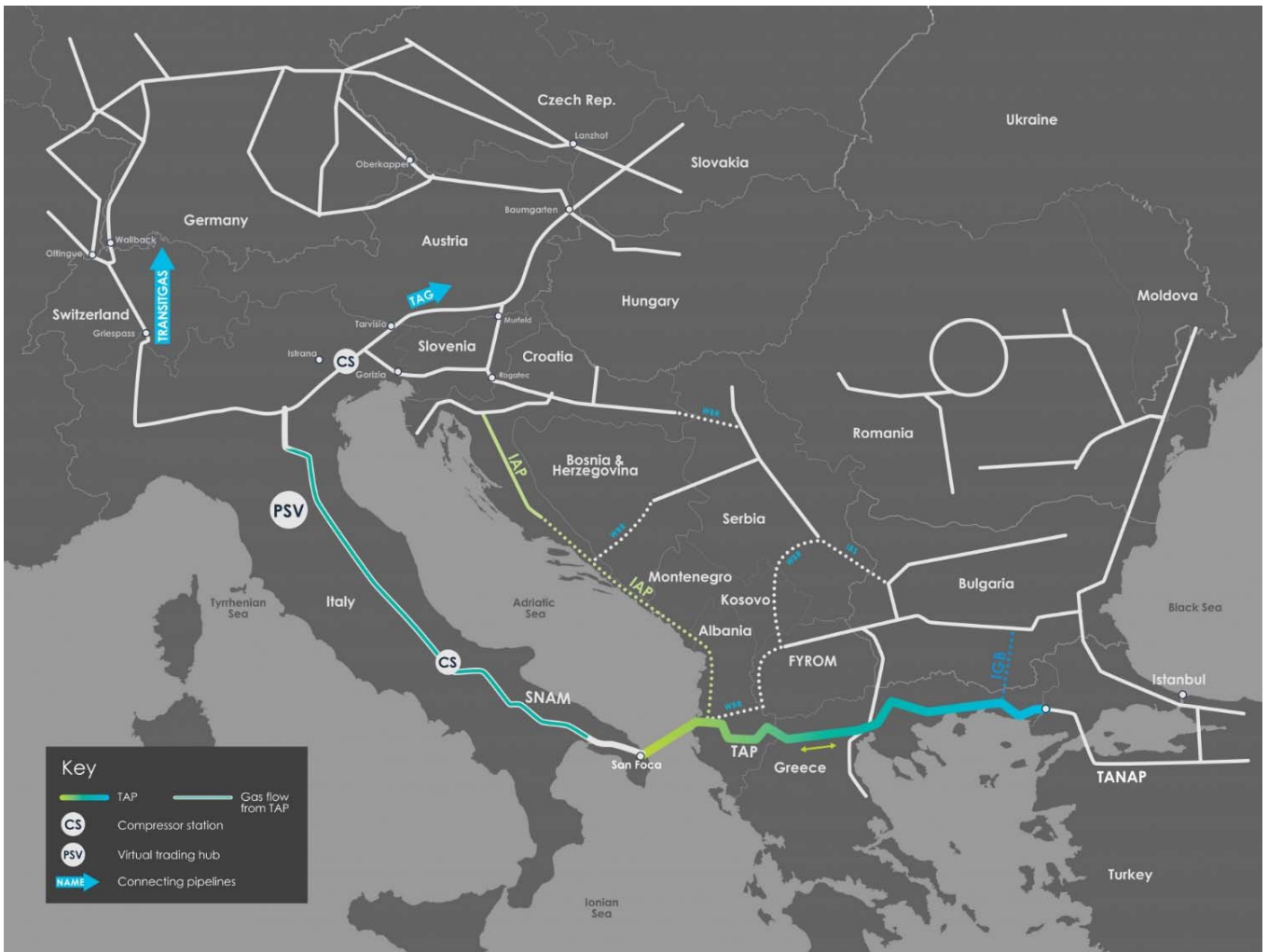


図 南欧、バルカン地域のガスパイプライン

TAP は下の青緑線で、イタリアの「かかと」まで。ギリシア、ブルガリア、イタリアへのガス供給の他、将来的にはさらにそれ以外の国・地域への供給も想定されている。(出典： TAP のウェブサイト)

(了)

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）調査部が信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。